

2018年映像情報メディア学会年次大会

2018 ITE Annual Convention Program

プログラム

2018年8月29日～31日

29 - 31 Aug. 2018

金沢大学 角間キャンパス

Kanazawa University Kakuma Campus

映像情報メディア学会 2018年 年次大会開催概要

会 期 2018年8月29日(水)・30日(木)・31日(金)
会 場 金沢大学 角間キャンパス 〒920-1192 石川県金沢市角間町 TEL:076-264-5111(代)

企画セッション

- (1) スポーツ観戦を変える超臨場感技術
- (2) ブロックチェーンの現状と今後～コンテンツ流通など様々な分野への適用可能性～
- (3) 国際会議・英語論文・フィールド論文の採録への道
- (4) 日韓ジョイントセッション
- (5) KIBME(The Korean Institute of Broadcast and Media Engineers)招待講演
- (6) 伝統工芸・芸能だけじゃない!? 金沢の映像・ものづくり業界【無料】
- (7) フェロー記念講演

公開講演会【無料】 次世代放送の取り組み～新4K8K衛星放送開始前夜～

デモ展示 ITE併設展示会2018, 8Kスーパーハイビジョンコンテンツデモ

一般講演(応募講演) 136件 31部門

大会参加費

《講演参加費》 *会 員 12,000円 会員外 24,000円
*学生会員 4,000円 会員外学生 7,000円
フレッシュパーソン講演(学生) 2,200円

《聴講参加費》 [予稿集付き]
(事前予約) *会 員 10,000円 会員外 14,000円
エグゼクティブ会員 7,000円
*学生会員 1,000円 会員外学生 2,000円
(当日) *会 員 11,000円 会員外 15,000円
エグゼクティブ会員 8,000円
*学生会員 1,500円 会員外学生 2,500円
*電気学会・電子情報通信学会・照明学会・情報処理学会・IEEEの個人会員、
維持会員社・団体所属の方は会員価格となります。

総合受付〔自然科学棟1階廊下に設置〕

大会参加者は、総合受付で署名のうえ、大会プログラム、参加章をお受け取り下さい。
参加章は必ず記名のうえ、首にお下げ下さい。

技術交流会 2018年8月30日(木) 18時00分～ [参加無料]
金沢大学 角間キャンパス 自然科学棟G2階 食堂

実行委員会事務局 映像情報メディア学会事務局
〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館403号室
TEL.03-3432-4677 FAX.03-3432-4675 E-mail:gyoji@ite.or.jp

大会期間中連絡先 2018年年次大会 大会本部 TEL.090-4529-4757

セッション配置 1日目(29日)

	会場A 101教室	会場B 103教室	会場C 104教室	会場D 105教室	会場E 201教室
1限目 09:00-10:20					
2限目 10:40-12:00	[12A] 立体映像技術 10:20-12:00 (p.6)	[12B] コンピュータビ ジョン+フェロー 記念講演 10:10-12:00 (p.6)	[12C] センシング1 10:20-12:00 (p.6)	[12D] 映像表現&CG1 11:00-12:00 (p.6)	[12E] ヒューマンイン フォメーション1 10:40-12:00 (p.6)
3限目 13:00-14:40	[企画セッション1] スポーツ観戦を 変える超臨場感 技術 13:00-15:10 (p.7)	[13B] メディア処理 13:00-14:40 (p.7)	[13C] センシング2 13:00-14:40 (p.8)	[13D] 放送現業1 13:00-14:20 (p.8)	[13E] ヒューマンイン フォメーション2/ アントレプレ ナー・エンジニア リング 13:00-15:00 (p.8)
4限目 15:00-16:40	[企画セッション2] ブロックチェーン の現状と今後～ コンテンツ流通な ど様々な分野へ の適用可能性～ 15:30-17:30 (p.8)	[14B] ヒューマンインタ フェース 15:00-16:40 (p.9)	[14C] センシング3 15:00-16:40 (p.9)	[14D] 放送方式1 14:40-16:40 (p.9)	[14E] スポーツ情報処 理(招待講演あ り) 15:20-17:30 (p.9)

セッション配置 2日目(30日)

	会場A 101教室	会場B 103教室	会場C 104教室	会場D 105教室	会場E 201教室
1限目 09:00-10:20		[21B] マルチメディアAI 1 9:20-10:20 (p.10)	[21C] 放送方式2 9:00-10:20 (p.10)	[21D] 放送現業2 9:00-10:20 (p.10)	
2限目 10:40-12:00	[企画セッション3] 国際会議・英語 論文・フィールド 論文の採録への 道 10:40-12:00 (p.10)	[22B] マルチメディアAI 2 10:40-12:00 (p.11)	[22C] 放送方式3 10:40-12:20 (p.11)	[22D] 無線・光伝送1 10:40-12:00 (p.11)	
3限目 13:00-14:40					
4限目 15:00-16:40					[公開講演会] 次世代放送の取 り組み～新4K8K 衛星放送開始前 夜～ (聴講無料) 13:00-17:45 大講義室A (p.11)
18:00-19:20					[技術交流会] (参加無料) 18:00-19:20 学生食堂

セッション配置 3日目(31日)

	会場A 101教室	会場B 103教室	会場C 104教室	会場D 105教室	会場E 201教室
1限目 09:00-10:20	[企画セッション4] 日韓ジョイント セッション 9:00-11:00 (p.12)	[31B] 画像符号化 9:00-10:20 (p.13)	[31C] ストレージ 9:20-10:20 (p.13)	[31D] 無線・光伝送2 9:00-10:20 (p.13)	[31E] 映像表現&CG2 9:00-10:20 (p.13)
2限目 10:40-12:00		[32B] 画像処理1 10:40-12:00 (p.14)	[32C] ディスプレイ 10:40-12:00 (p.14)	[32D] 放送方式4+フェ ロー記念講演 10:40-12:30 (p.14)	[32E] 映像表現&CG3 10:40-12:00 (p.14)
3限目 13:00-14:40	[企画セッション6] 「伝統工芸・芸 能」だけじゃな い!? 金沢の映 像・ものづくり業 界 (聴講無料) 13:10-16:35 (p.14)	[33B] 画像処理2 13:00-14:40 (p.15)		[33D] 放送方式5 13:00-14:40 (p.15)	
4限目 15:00-16:40		[34B] [特集テーマ]AI 技術の産業応用 +フェロー記念講 演 15:00-16:50 (p.15)		[34D] 放送方式6 15:00-16:40 (p.16)	

詳細プログラム

1件20分(講演15分+質疑応答4分+交代および次の発表紹介1分)

○印は登壇者

会場	日時	[セッション番号]セッション名	座長
8月29日(水) 2限目			
会場A	8/29(水) 10:20-12:00	[12A]立体映像技術	中平 篤(NTT)
12A-1	自然な立体像表示のための奥行き圧縮表現の提案 ○宮下山斗・澤島康仁(NHK), 森田寿哉(NHK-ES), 小峯一晃(NHK)		
12A-2	インテグラル立体における画素間隔とぼやけの関係を調べる評価実験 ○片山美和・澤島康仁・小峯一晃・三科智之(NHK)		
12A-3	インテグラル立体における非線形奥行き圧縮に適応した3次元モデル生成手法 ○池谷健佑・渡邊隼人・岡市直人・佐々木久幸・久富健介・河北真宏・三科智之(NHK)		
12A-4	実空間と整合する超多眼系における再構成品質の評価 ○須田聖也(東京理科大), 児玉和也(NII), 浜本隆之(東京理科大)		
12A-5	光学リニアレンディングを用いた360度テーブル型裸眼3Dスクリーンシステムの提案と基礎検討 ○巻口誉宗・高田英明(NTT), 川上 徹・篠井むつみ(東北大)		
会場B	8/29(水) 10:10-12:00	[12B]コンピュータビジョン+フェロー記念講演	根岸博康(三菱電機)
12B-1	マルチモーダルなコンテンツ解析に基づく撮影地点の推定 ~ 地名の固有表現抽出と画像照合に基づく地点探索の併 ○松井 淳・藤森真綱・望月貴裕(NHK)		
12B-2	CNNを用いた漫画キャラクタ顔画像クラスタリングシステムの改良に関する一検討 ○柳澤秀彰・山下拓朗・渡辺 裕(早大)		
12B-3	アオリ光学系における色収差を用いた距離推定 ○西峯沙耶(東京理科大), 池岡 宏(福山大), 浜本隆之(東京理科大)		
12B-4	サッカー放送映像からの特定選手追跡のための動的尤度を用いた粒子フィルタの提案 ○中村達也・中島克人(東京電機大)		
12B-5	11:30-12:00 【フェロー記念講演】映像圧縮符号化とのかかわり(予稿なし) ○上倉一人(東京工芸大) 映像圧縮符号化の研究をとおして感じてきたことや、大学教員になって感じたことなどを、お話をさせていただきたいと思っています。		
会場C	8/29(水) 10:20-12:00	[12C]センシング1	大竹 浩(NHK)
12C-1	複数回のサンプリングを用いた低雑音なグローバルシャッタCMOSイメージセンサ ○山口裕之・大高俊徳・浜本隆之(東京理科大)		
12C-2	低ノイズ非破壊読み出し画素構造における電荷転送改善 ○鍋島拓文・安富啓太・香川景一郎・高澤大志・川人祥二(静岡大)		
12C-3	全空乏SOI基板を用いた電荷転送型ピクセル ○中西駿太・安富啓太・寺西信一・川人祥二(静岡大)		
12C-4	二段階加熱による結晶化法を適用した結晶セレン膜積層型8Kセンサーの画素欠陥の低減 ○為村成亨・峰尾圭忠・本田悠葵・新井俊希・渡部俊久・宮川和典・難波正和・大竹 浩・久保田節(NHK)		
12C-5	光電変換膜積層型8K撮像デバイス用3Tr.型画素回路の暗電流評価 ○新井俊希・大竹 浩(NHK)		
会場D	8/29(水) 11:00-12:00	[12D]映像表現&CG1	向井信彦(東京都市大)
12D-1	フェンシング競技における剣先軌跡の可視化 ○高橋正樹・横澤真介・三ツ峰秀樹・齋 哲也・直江正人・船木 聡(NHK)		
12D-2	ARツールを用いた競技フィールド再構成視聴システム ○亀田明男・田中康暁・磯貝 愛・越智大介・木全英明(NTT)		
12D-3	競技フィールド再構成における無線を活用した多視点カメラ同期撮影システムの基礎検討 ○田中康暁・磯貝 愛・亀田明男・木全英明(NTT)		
会場E	8/29(水) 10:40-12:00	[12E]ヒューマンインフォメーション1	近藤 悟(NHK)
12E-1	映像コンテンツ表示方法と地域振興 ~ 「京都マラソン2018」を題材に ~ ○田畑恒平(京都産業大)		
12E-2	競技データを利用したスポーツ手話CG自動生成システム ○内田 翼・住吉英樹・宮崎太郎・東真希子・梅田修一・加藤直人(NHK), 比留間伸行(NHK-ES), 山内結子(NHK)		

12E-3	レイアウト最適化機能を備えたサイネージ生成システム「WEBデザインコンバータ」の開発 ○寺中晶都・渡辺昌洋・森西優次・中濱清志・松浦由美子(NTT)
12E-4	「WEBデザインコンバータ」によるコンテンツ作成の効率化とコンテンツの見やすさの評価 ○渡辺昌洋(NTT), 澤瀬順一(NTTドコモ), 寺中晶都・森西優次・中濱清志・松浦由美子(NTT)

8月29日(水) 3限目

会場A	8/29(水) 13:10-15:10	[企画セッション1]スポーツ観戦を変える超臨場感技術	高村誠之(NTT)
従来のスポーツ観戦は、AR・VR技術、高臨場映像システム、高精細映像処理技術といった「超臨場感技術」の進展により大きく変貌をとげつつある。本講演会では、この超臨場感技術の最先端において、どのようなスポーツ観戦やトレーニング体験を可能にしているかを俯瞰し、今後どのような発展・応用がありうるか、どのような領域と融合していけるかといった可能性について展望する。			
13:00-13:05 開会挨拶			
企画1-1	13:05-13:25	8Kスローモーションシステムに向けた取り組み 富岡宏平(NHK放送技術研究所 テレビ方式研究部 研究員)	
8K番組制作での多彩な映像表現の実現を目指して、8Kスローモーションシステムの研究開発を進めている。今回、フルスペック8K制作システムに向け開発した8K120fps撮像技術と8K120fps圧縮記録再生技術を活用することで、8K60fpsの2倍速スロー映像が送出可能なスローモーションシステムを開発し、平昌五輪などの8Kスポーツ中継現場で運用したので報告する。また、さらなるハイスピード撮影に向けた取り組みとして、8K240fps撮像装置の開発および撮影実験について述べる。			
企画1-2	13:25-13:45	Sports 4D Motionシステムの開発～スポーツシーンの四次元空間解析と映像表現～(予稿なし) 池谷健佑(NHK放送技術研究所 空間表現メディア研究部 研究員)	
Sports 4D Motionは、多視点カメラで撮影し、時間を止めて視点が被写体の周囲を回り込むような映像表現である「ぐるっとビジョン」に、撮影映像から解析したボールの軌跡など動きの情報を3次元CGで合成表示する映像表現である。速度や打点などの解析データの提示も可能で、スポーツ番組において、選手やボールの動きをわかりやすく伝えることができる。講演では、Sports 4D Motionの映像表現手法とそのオンライン映像処理システムについて紹介する。			
企画1-3	13:45-14:10	xR技術の最新動向とリアルタイム自由視点VRの取り組み 野中敬介(KDDI総合研究所 超臨場感通信グループ 研究主査)	
近年スポーツ観戦の新たな形として盛り上がりを見せるxR(VR,AR,MR)技術に関して、デバイス等の観点からその最新動向を分析し、将来的な発展の方向性としての「リアルタイムxRスポーツ観戦」の可能性に言及する。また、それら体験を提供するための映像処理技術のひとつとして、自由視点VR技術の取り組みを紹介する。特に、リアルタイムでの自由視点映像合成に関して、その技術詳細に言及する。また、実際のスポーツシーンを用いた当該技術の実施事例も紹介する。			
14:10-14:20 休憩			
企画1-4	14:20-14:45	VRを活用したスポーツトレーニングの試み 三上 弾(NTTメディアインテリジェンス研究所 主任研究員(特別研究員))	
本講演では、スポーツのパフォーマンス向上を目指して開発している、VRを利用したイメージトレーニングについて紹介します。我々のシステムでは、プレーを三次元空間で再現し、それを高い臨場感で体験することを実現しています。これにより、バーチャル空間ではあるものの「慣れ」を創出し、実戦場面で高いパフォーマンスを発揮することを期待しています。講演中では、これを活用した最近の取り組みについても紹介したいと考えています。			
企画1-5	14:45-15:10	Kirari! ～ 超高臨場感を世界中の人々へ～ 外村喜秀(NTTサービスエボリューション研究所 主任研究員)	
NTTサービスエボリューション研究所では、従来のメディアでは伝えることが難しかった「高い」や「速い」といった臨場感を離れた場所や時間を超えて人々と共有することを目的に、超高臨場感通信技術 Kirari! の研究開発を行っています。Kirari! は特定の1研究分野だけに留まらず、未来の新しいコミュニケーションの一形態を示すことを目指して研究開発を行っています。本稿では、現在のKirari! のフレームワークや要素技術を概説し、スポーツ観戦に応用した今後の展望を述べます。			
○セッション終了後、デモ展示あり。			

会場B	8/29(水) 13:00-14:40	[13B]メディア処理	金子 豊(NHK)
13B-1	弦楽器の運指認識とその楽譜との対応付け ○新村祐加・中島克人(東京電機大)		
13B-2	低解像度画像からの特定物体認識に関する一検討 ○渡邊之人・島村 潤・嵯峨田淳(NTT)		
13B-3	ブロックチェーン活用コンテンツ権利管理におけるコンテンツ実体への追跡情報付加 ○中平 篤・藤村 滋・大橋盛徳・渡邊大喜・日高浩太(NTT)		
13B-4	携帯端末で最適な配信メディアを提供するシステムの視聴評価実験 ○竹内真也・田口周平・遠藤大礎・藤澤和也・加井謙二郎(NHK)		

13B-5	番組制作支援のためのTweet→TV番組検索システム ○宮崎太郎・牧野仁宣・武井友香(NHK), 住吉英樹(NHK-ES), 後藤 淳(NHK)		
会場C	8/29(水) 13:00-14:40	[13C]センシング2	大竹 浩(NHK)
13C-1	有機撮像デバイス用信号読み出し回路の微細化技術 ○堀 洋祐・高木友望・堺 俊克・中田 充・佐藤弘人・大竹 浩・相原 聡(NHK)		
13C-2	FERT計測用レンズレス蛍光CMOSイメージングデバイスの光学特性評価 ○亀山愛樹・W. S. Hee・木村文香・春田牧人・野田俊彦・笹川清隆・徳田 崇・太田 淳(奈良先端科大)		
13C-3	RGB-IRカメラを用いた同一色背景からのリアルタイム被写体抽出 ○長尾慈郎(NTT), 山口真理子(NTTぶらら), 長田秀信・日高浩太(NTT)		
13C-4	二次元赤外撮像素子のライン変動ノイズ抑圧手法 ○藤野俊樹・伊藤 俊・山下孝一・鈴木大祐(三菱電機)		
13C-5	ハイダイナミックレンジ合成のための高速な位置合わせ手法の検討 ○豊田善隆・鈴木大祐(三菱電機)		
会場D	8/29(水) 13:00-14:20	[13D]放送現業1	小島敏裕(フジテレビ)
13D-1	エッジ法を用いたリアルタイムMTF測定システムによる測定事例 ○新井一之・吉川 彰・正岡顕一郎(NHK), 大澤政寛・小林弘和・佐藤 仁・足立陽平(アストロデザイン)		
13D-2	フルスペック8K対応小型波長多重伝送装置の開発 ○林田哲哉・小出大一(NHK), 米内 淳(NHK-ES), 荒井敦志・青木秀一・三浦菊佳・瀧口吉郎・西田幸博(NHK)		
13D-3	フルスペック8K局外制作システムの開発 ○荒井敦志・林田哲哉・小出大一(NHK), 米内 淳(NHK-ES), 青木秀一・三浦菊佳・菊地幸大・瀧口吉郎・西田幸博(NHK)		
13D-4	汎用コーデックを用いた8K/120Hz編集実験 ○菊地幸大・梶山岳士・宮下英一(NHK)		
会場E	8/29(水) 13:00-15:00	[13E]ヒューマンインフォメーション2/アントレプレナー・エンジニアリング	渡辺昌洋(NTT) 善本哲夫(立命館大)
13E-1	実空間における簡易な目標物指定による自己位置・方位特定手法の提案 ○廣嶋伸章・松田 治・望月 充・瀬下仁志(NTT)		
13E-2	コントラストと観視時間におけるトロクスラー効果に関する研究 ○宮本貴裕・梶原康平・鉄谷信二(東京電機大)		
13E-3	3D表現を用いた遠近画像における奥行知覚に関する研究 ○岩崎晟弥・柴田 光・鉄谷信二(東京電機大)		
13E-4	空中像への触覚情報付与による存在感提示技術 ○中野将尚・布引純史(NTT)		
13E-5	科学技術イノベーションの社会実装 ~ 運動誘導システムのケース ~ ○岡部周平・善本哲夫・野間春生(立命館大)		
13E-6	建設生産システムの革新とデジタルものづくり ○善本哲夫(立命館大)		
8月29日(水) 4限目			
会場A	8/29(水) 15:30-17:30	[企画セッション2]ブロックチェーンの現状と今後～コンテンツ流通など 様々な分野への適用可能性～	柳原広昌(KDDI総合研)
企画2-1	ブロックチェーンは、ビットコインなどの仮想通貨を支える「分散型台帳技術」として世界中に広がりを見せている。本講演では、ブロックチェーンとは何か、どのような技術的な特徴を持つのか、なぜここまで広がったのか、課題は何か、金融など既存の社会インフラに対しどのように影響を及ぼすのか、など現状と今後について俯瞰するとともに、コンテンツ流通など他の様々な事業分野への適用可能性やその取組み、社会システムの変革の可能性などについて展望する。		
	15:30-16:20 2030年、ブロックチェーンのある未来と無い未来 赤澤正純(一般社団法人ブロックチェーン開発者協会 代表理事) ブロックチェーンの特徴の一つに信頼性の担保があります。ビジネスにおいても個人間のやり取りの中でも、取引の完遂には十分な信頼性があることが必須条件になります。今まではそれを与信や個人間の関係性によって担保していましたが、ブロックチェーンを社会インフラとして使うことによって、信頼性の担保の一部を担ってもらえることが出来ます。2018年現在、世界ではいくつものブロックチェーンプロジェクトが実際に動き始め、製品として提供され始めています。講演では、2030年のブロックチェーンのある未来をお伝えしたいと思います。		
	16:20-16:30 休憩		
	16:30-17:00 コンテンツ流通へのブロックチェーン活用について 中平 篤(日本電信電話㈱ サービスエボリューション研究所 主任研究員)		

企画2-2	動画配信サービスやSNSサービスを代表としてネットでの映像利用利用が広く普及しています。映像コンテンツの権利処理を円滑に進められることができると、さらにコンテンツの流通が促進されと考えられます。円滑な権利処理には透明性の高いシステムが望まれたため、中央集権的な仕組みを持たないブロックチェーンの活用が期待されます。ブロックチェーンにコンテンツの権利を登録し、その流通を管理する方式について、技術課題とそれに対する取り組みについて紹介します。
企画2-3	17:00-17:30 ブロックチェーン技術の活用と課題(予稿なし) 清本晋作(株)KDDI総合研究所 情報セキュリティグループ グループリーダー 近年、ビットコインのコンポーネントとして設計されたブロックチェーンの利活用が注目を集めている。特に、ブロックチェーン上でプログラム実行環境を提供するスマートコントラクト基盤は、新たな基盤技術として様々な応用が検討されている。本講演では、スマートコントラクト基盤の最新動向等を紹介するとともに、スマートコントラクト基盤のレベニューシェアスキームへの適用などの応用事例を考察し、その実現性や課題等を議論する。

会場B	8/29(水) 15:00-16:40	[14B]ヒューマンインタフェース	宮崎太郎(NHK)
14B-1	周辺単語からの未知キーワードの代替語予測の検討 ○金子 豊・星 祐太・村崎康博・上原道宏(NHK)		
14B-2	視聴実験によるロボットとのテレビ視聴に関する基礎調査 ○星 祐太・金子 豊・村崎康博・上原道宏(NHK)		
14B-3	手遊びのハンドジェスチャによるロボットの操作プラットフォームの提案 ○辻 天斗・牛田啓太・陳キュウ(工学院大)		
14B-4	可搬型対面翻訳ディスプレイシステムの検討 ○西條涼平・草深宇翔・植 優一・合田卓矢・永徳真一郎(NTT)		
14B-5	なりきり質問応答を用いた感情タグ付き発話データの収集と感情の自動推定 ○東中竜一郎・石井 亮・片山太一・増村 亮・富田準二(NTT), 川端秀寿・山口絵美・安達敬武(ドワンゴ)		

会場C	8/29(水) 15:00-16:40	[14C]センシング3	大竹 浩(NHK)
14C-1	裏面照射マルチ電荷収集ゲート超高速撮像素子の設計と評価 ○森本一太・江藤剛治・下ノ村和弘(立命館大)		
14C-2	扇形4タップ変調素子を有するTOF距離画像センサの評価 ○山田航平・近藤啓太・大倉雄志・安富啓太・道場友哉・マース カメル・高澤大志・川人祥二(静岡大)		
14C-3	参照光サンプリングによるTOF距離イメージセンサの高距離分解能化 ○大倉雄志・安富啓太・高澤大志・香川景一郎・川人祥二(静岡大)		
14C-4	画像からの距離情報推定手法の一提案 ~ 複素ウェーブレット変換を用いた位相差検出 ~ ○岡本大輝・船津良平・島本 洋(NHK)		
14C-5	Instance Segmentationを用いた航空写真からの建物変化点検出に関する一検討 ○宮澤健人・早瀬和也・清水 淳(NTT)		

会場D	8/29(水) 14:40-16:40	[14D]放送方式1	和泉田智志(日本テレビ)
14D-1	個人向けIBBサービスにおけるVABKSを用いたプライバシー保護システムの安全性解析と実装評価 ○梶田海成・小川一人・大竹 剛(NHK)		
14D-2	ユーザー操作に応じたシェーピング適応切替を用いた動画配信におけるレスポンス向上の検討 ○黒住正顕・西村 敏・山本正男(NHK)		
14D-3	端末連携型配信メディア統合視聴システムの試作 ○遠藤大礎・田口周平・竹内真也・藤澤和也・加井謙二郎(NHK)		
14D-4	メディア統合プラットフォームにおけるさまざまな種類のコンテンツを対象とするシステムモデルの試作 ○田口周平・遠藤大礎・竹内真也・藤澤和也・加井謙二郎(NHK)		
14D-5	Color Appearance Modelに基づく8K色域変換装置の開発 ○小野浩司・片野淳一・作中 剛(アストロデザイン)		
14D-6	4KVR映像ライブ中継による、テレ歩行体験「ロボヒト」の検討 ○小合健太・高宮駿介・松井龍也・佐久間聡・木下真吾(NTT)		

会場E	8/29(水) 15:20-17:30	[14E]スポーツ情報処理	三ッ峰秀樹(NHK)
14E-1	Kinectを用いたバットスイング軌道の計測に関する検討 ○田村 徹・木村瑞生(東京工芸大)		
14E-2	一般ランナー支援のためのマーカレスフォーム映像分析 ○黒川恵輔・小松孝徳・鹿喰善明(明治大)		
14E-3	バスケットボールのフォーメーション練習におけるシュート動作の映像分析手法 ○長谷川剛己(東京電機大), 高橋時市郎(東京電機大/アストロデザイン)		
14E-4	スピードスケートにおけるコーナーリング中のスケーティング軌跡の可視化 ○盛岡寛史(NHK), 角田 貢(日体大), 三ッ峰秀樹(NHK)		
14E-5	揺動する撮影環境下における被写体自動追尾手法の一検討 ○中嶋淳一・長谷川馨亮・青木政勝・森住俊美・山口徹也(NTT), 小野 朗(NTTテクノクロス)		

14E-6	17:00-17:30 [招待講演] スポーツ映像解析の最新動向(予稿なし) ○高橋康輔(NTT) 本講演では昨今急速に注目を集めるスポーツ分野におけるコンピュータビジョン技術の現場での活用事例を概観するとともに、最新の研究動向を紹介する。研究動向に関しては、CVPR2018およびそのスポーツ映像処理に関するワークショップCVSports2018を中心に国内外での興味深い取り組みを紹介し、それらに基づいて今後の研究の方向性・実応用に向けた展開について考察する。
-------	---

8月30日(木) 1限目

会場B	8/30(木) 9:20-10:20	[21B] マルチメディアAI1	藤井真人(NHK-ES)
21B-1	Deep Neural Networkへの電子透かしにおける鍵の真正性確保の一検討 ○明堂絵美・田坂和之(KDDI総合研), 酒澤茂之(大阪工大)		
21B-2	SNS投稿画像分類のための学習データ構成手法および判定基準の検討 ○藤森真綱・望月貴裕・河合吉彦・佐野雅規(NHK)		
21B-3	DNNに基づく商標画像検索 ○梅田崇之・安藤慎吾・嵯峨田淳(NTT)		

会場C	8/30(木) 9:00-10:20	[21C] 放送方式2	松本卓三(古河電工)
21C-1	地上デジタル放送のLDM方式におけるLDPC復号回路共用化の検討 ~ 第1階層の誤り訂正復号所要反復回数に関する評価結果 ~ ○大内幹博・木村知弘(パナソニック)		
21C-2	FDMとLDMを組合せた階層伝送の室内実験評価 ○佐藤明彦・井地口朋也・山上悠喜・宮坂宏明・朝倉慎悟・部 拓也・白井規之・竹内知明・中村円香・岡野正寛・村山研一・土田健一・中原俊二(NHK)		
21C-3	LDM方式により地デジと4K放送を同一チャンネルで伝送する技術手法の検討 ○穴澤 毅・岡田寛正・今村和樹・高林 徹・柴田 豊・本間康文(TBSテレビ)		
21C-4	地上デジタル放送高度化技術の検討 ~ セグメントを分割して2Kを水平偏波、4Kを水平・垂直両偏波で伝送する技術手法の検討 ~ ○栗山和久・並川 巖・小野浩一(関西テレビ)		

会場D	8/30(木) 9:00-10:20	[21D] 放送現業2	鈴木高幸(テレビ朝日)
21D-1	軽圧縮8K IP伝送装置の開発と1000km長距離伝送実験 ○川本潤一郎・小山智史・河原木政宏・倉掛卓也・斎藤恭一(NHK)		
21D-2	IP制作システムのためのネットワーク構築及びインフラ監視 ○河原木政宏・小山智史・川本潤一郎・倉掛卓也・斎藤恭一(NHK)		
21D-3	画像認識技術を用いた番組制作支援 ○佐藤 誠・神崎正斗・鈴木寿晃・篠田貴之(日本テレビ), 山地雄士・小林大祐・柴田智行・大内一成(東芝)		
21D-4	音声認識技術によるリアルタイム書き起こしシステムの開発 ○三島 剛・一木麻乃・萩原愛子・伊藤 均・小早川健・佐藤庄衛(NHK)		

8月30日(木) 2限目

会場A	8/30(木) 10:40-12:00	[企画セッション3] 国際会議・英語論文・フィールド論文の採録への道(予稿なし)	望月貴裕(NHK)
<p>昨年の年次大会で「論文・国際学会Acceptへの道 ~レビューへの対応例~」を企画し、「原著者の立場」から、どのように査読コメントへ対応するかというノウハウを伝授いただき、好評を博しました。</p> <p>今年度は逆に「査読する立場」からのお話をいただく貴重な場を設けました。</p> <p>日頃数多くの査読をこなされ、また難関国際会議に高率採録もされている一線の研究者の方々から、どのような書き方だと落とされやすいのか、逆に落とされにくいのか、査読ポイントを開陳いただけます。加えて、本会ならではの論文形態である「フィールド論文」の紹介をいただき、通常の論文の枠にはまらないような工夫や調査等の出版方法を伝授いただけます。</p> <p>本企画が日本の映像情報メディア研究プレゼンスの向上の一助になるものと確信しています。</p>			
10:40-10:45 趣旨説明			
企画3-1	10:45-11:10	<p>ICPR等査読する際の採否のポイント</p> <p>サイモン クリピングデル(NHK放送技術研究所 上級研究員)</p> <p>近年、AIブームなど故に、コンピュータビジョンやパターン認識関連の国際会議への投稿件数が増えてきた。投稿者の観点からは、査読が厳しくなるかも知れないが、査読者の観点からは、査読依頼の件数も増加している。今回は「査読する立場」から、多くの査読を効率良く行うポイントを紹介し、査読者がどのような目で見ているのか、どのような原稿を「アクセプト」するのかについてディスカッションする。</p>	
11:10-11:35 無駄撃ちしない論文投稿 高橋桂太(名古屋大学 准教授)			

企画3-2	英語論文の投稿には多くの時間や労力を要します。できれば、闇雲に投稿しては落とされる、無駄撃ちは避けたいと考えるのではないのでしょうか。本講演では、著者として、査読委員・編集委員として、さらには学生を指導する立場からの私の経験(限られた経験ではありますが)を踏まえて、国際会議・英語論文誌に高確率で採択されるための心がけについて、皆様と議論したいと思います。
企画3-3	11:35-11:55 現場の工夫を論文に～フィールド論文とは？～ 小川一人(NHK放送技術研究所 上級研究員) 論文を書く、ということに高いハードルを感じている人は多いのではないのでしょうか。学術的な新規性がなければいけない、と考えていませんか。論文は研究者だけのものではありません。多くの方に役立つものでなければなりません。映像情報メディア学会では、現場の新規の工夫があり、実用性があれば、古い技術の寄せ集めでも論文にできます。それが『フィールド論文』です。映像情報に関連する・しないに関わらず多くの“現場”ではいろいろな工夫がなされて、その場を乗り切っています。その工夫を多くの方に知っていただき、より良い技術を作る、楽しい現場を作る、そのための論文を書いてみませんか。
	11:55-12:00 総合質疑・総括 #各講演は質疑5分含む

会場B	8/30(木) 10:40-12:00	[22B]マルチメディアA12	清水智行(KDDI総合研)
22B-1	カスケード型畳み込みネットワークを用いた顔検出 ○河合吉彦・遠藤 伶・藤森真樹・望月貴裕(NHK)		
22B-2	顔向きの変化に高精度かつ軽量の表情認識手法 ○呉 剣明・王 亜楠・帆足啓一郎・滝嶋康弘(KDDI総合研)		
22B-3	色合いの一貫性を考慮した白黒映像カラー化システム ○遠藤 伶・河合吉彦・望月貴裕(NHK)		
22B-4	深層学習に対する電子透かしの要件分析 ○酒澤茂之(大阪工大)		

会場C	8/30(木) 10:40-12:20	[22C]放送方式3	甲斐 創(日本テレビ)
22C-1	8K120Hz HEVCリアルタイムコーデック装置の開発 ○千田和博(NHK), 雷 旭穎(富士通研), 岩崎真也・杉藤泰子(NHK), 三好秀誠・上原義文(富士通研), 井口和久・神田菊文(NHK)		
22C-2	8K120Hz HEVCエンコーダの高効率・高画質アーキテクチャの開発 ○雷 旭穎(富士通研), 千田和博(NHK), 三好秀誠・上原義文(富士通研), 岩崎真也・杉藤泰子・井口和久・神田菊文(NHK)		
22C-3	低遅延HEVC/MMTコーデックシステムの開発 ○小野正人・難波功次・山口徹也・小野 朗(NTT)		
22C-4	深層学習を用いたイントラ予測の候補モード決定手法の検討 ○松下茉愛・鹿喰善明(明治大), 岩村俊輔・根本慎平(NHK)		
22C-5	次世代地上放送における符号化効率向上のための雑音除去・帯域制限装置の開発 ○松尾康孝・井口和久・神田菊文(NHK)		

会場D	8/30(木) 10:40-12:00	[22D]無線・光伝送1	福本正義(NEC)
22D-1	FNS系列 SNGシステム(F・SAT)の更新～SNG回線のIP化と自動化運用の導入～ ○秋信真太郎・富吉政貴・吉村理希(フジテレビ)		
22D-2	双方向4x4 TDD-SVD-MIMO方式を用いた2.3GHz帯移動中継用FPUの電波伝搬特性解析 ○波多野慶・杉山 仁・小野琢磨(NHKアイテック), 光山和彦・鶴澤史貴・伊藤史人・居相直彦(NHK), 斉藤彦一(NHKアイテック)		
22D-3	LDM方式のFPUへの適用に関する検討と試作 今村和樹・岡田寛正・穴澤 毅・高林 徹・深澤知巳(TBSテレビ), 小山田真也・仲田樹広(日立国際電気)		
22D-4	衛星放送受信設備における漏洩電力簡易測定器の試作と性能評価 ○岩崎充志・長坂正史・田中祥次(NHK)		

8月30日(木) 3限目

大講義室 A	8/30(木) 13:00-17:45	[公開講演会]次世代放送の取り組み～新4K8K衛星放送開始前夜～ (聴講無料)(予稿なし)	池田哲臣(NHK)
2018年12月に「新4K8K衛星放送」が開始されるにあたり、放送方式の標準化の経緯、送出設備の概要、新4K8K放送対応の宅内配信機器および受信機の開発状況、4Kコンテンツ制作の現状について述べる。また、地上波での4K8K放送を目指した次世代地上放送の研究開発状況についても紹介する。			
13:00-13:05 開会挨拶			
13:05-13:55 50分 4K8K放送方式の標準化 西田幸博(NHK放送技術研究所)			

①	2000年の衛星デジタル放送開始、2003年の地上デジタル放送開始以降、デジタルHDTV放送の普及と並行して、HDTVを超える4K8K超高精細度テレビジョンや5.1chを超えるマルチチャンネル音響を始めとした放送の高度化に向けた研究開発と標準化が進められた。2012年のITU-R勧告BT.2020策定とロンドン五輪パブリックビューイングの成功を契機として、4K8Kサービスの早期実用化の機運が高まった。CSデジタル放送による4K放送に続き、BSでも、2016年からの試験放送を経て、2018年12月から新4K8K衛星放送が始まる。新4K8K衛星放送に至る標準化の経緯と放送方式を概説する。
②	13:55-14:40 45分 送出設備の整備概要 原 哲(NHK技術局) 2016年8月1日、世界で初めて4K8K試験放送がスタートした。新たな放送サービスに対応するためARIB標準規格や運用規定の検討や策定が進められたと同時に、8K対応のエンコーダ/デコーダ、MMT/TLV方式に対応した多重化装置、放送信号検証用の受信装置など放送を送出するための設備を新規に開発した。本講演では開発した4K8K試験放送送出設備および、2018年12月1日に開始する4K8K本放送に向け、階層変調や新CAS方式に対応した開発中の4K8K本放送送出設備について紹介する。
	14:40-14:55 休憩
③	14:55-15:35 40分 新4K8K衛星放送の宅内配信について 坂本 徹(A-PAB(放送サービス高度化推進協議会)) 12月1日から実用放送が開始される「新4K8K衛星放送」の受信システムについて、パラボラアンテナでの受信から宅内・各部屋への受信信号の伝送を説明します。新しく採用される左旋円偏波、放送チャンネルや周波数変換の仕組み、3.2GHzへ拡張された中間周波数帯域や交換が必要な機器、伝送特性などの紹介、また 拡張された中間周波数帯域での周辺電気機器などとの干渉や、6月より開始された電波漏洩対策助成金制度についても紹介し ます。
④	15:35-16:00 25分 新4K8K衛星放送受信チューナー 小野 康(ソニー) 世界の様々な放送方式に対応したチューナーをいち早く世の中に送り出してきたソニーから、2016年7月に新4K8K衛星放送受信チューナーのプレスリリースを行いました。 12月の実用放送を目前に、新チューナ開発までの道のり、優れた受信性能を実現する技術、そして、エンジニアの熱い想いについてご紹介します。
⑤	16:00-16:45 45分 ライブ制作におけるHDR/SDRサイマル制作の取り組み 宇佐美貴士(朝日放送テレビ) 朝日放送テレビでは、2015年から夏の高校野球を通じて、4Kでのライブ制作に取り組んできた。初年度となる2015年は、4K/SDRでの生中継に挑戦。2016年から将来的なHD/SDR(地上デジタル放送)と4K/HDR(BS4K放送)のサイマル制作を想定し、現場制作はHDR制作を基本とし、最終段でSDR等必要なフォーマットへ変換する手法を検証してきた。 2017年には、BS試験放送(A-PAB)にて4K/HLGでの生中継とハイブリッドキャストを活用した4K/SDRでのライブ配信を実施することができた。 2018年は、第100回の記念大会となる開会式を4K/HLG制作し、同時生成されたHD/SDRをBS朝日にて生中継を行った。 今回の講演では、サイマル制作手法の実例や今後に向けての課題を紹介する。
	16:45-16:55 休憩
⑥	16:55-17:40 45分 地上4K8K放送の研究開発動向 岡野正寛(NHK放送技術研究所) 地上波での4K8K放送の実現を目指し、変調方式や誤り訂正技術などの研究開発が進められています。ここでは国の委託研究である「地上テレビジョン放送の高度化技術に関する研究開発」で取り組まれている地上放送高度化方式の伝送方式の研究開発の成果および平成30年秋に東京地区と名古屋地区で予定されている大規模な野外伝送実験の実施に向けた準備状況を中心に解説します。
	17:40-17:45 閉会挨拶

8月31日(金) 1限目

会場A	8/31(金) 9:00-11:00	[企画セッション4]日韓ジョイントセッション KIBME & ITE Joint Session Presentations	Nam Ik Cho (Seoul National Univ.) Takahiro Mochizuki (NHK)
企画4-1	Interaction Design for Media Installation on an Urban Building ~ An audience-participative interactive public viewing on an urban building ~ ○Shunsuke TAKAMIYA・Ryo YAMASHITA・Hiromu MIYASHITA (NTT), Satoshi ODA・Yoshiyuki OKADA (NTT DOCOMO)		
企画4-2	Robust Motion Deblurring Based on Coded Exposure Photography in the Presence of Poisson and Gaussian Noises ○Chihiro Tsutake・Toshiyuki Yoshida (Univ. of Fukui)		
企画4-3	A Study on Lightweight DCGAN Network Architecture for Mobile Devices ○Tomoyuki SHIMIZU (KDDI Research)		
企画4-4	Multiple Transform of Intra Predicted Chrominance Signal Utilizing Structural Similarity with Luminance Signal ○Jeeyoon Park・Byeungwoo Jeon (Sungkyunkwan Univ.)		

企画4-5	Inception-Based Convolutional Neural Network for the Reduction of Compression Artifacts in Image and Video Codecs ○Yoonsik Kim・Jae Woong Soh・Jaewoo Park・Nam Ik Cho (Seoul National Univ.)
企画4-6	Focal Length Estimation for Augmented Reality Services ○Jungsik Park・Jong-Il Park (Hanyang Univ.)

会場B	8/31(金) 9:00-10:20	[31B]画像符号化	小松 隆(神奈川大)
31B-1	敵対的生成ネットワークによる画像補間を応用したブロックベース画像符号化方式の検討 ○折橋翔太・工藤 忍・北原正樹・清水 淳(NTT)		
31B-2	適応的な三角パッチに基づく動き補償予測法について ○神谷圭亮・吉田俊之(福井大)		
31B-3	事例探索と確率モデルの最適化に基づく静止画像の可逆符号化 ○辻 流平・亀田裕介・松田一朗・伊東 晋(東京理科大)		
31B-4	事例探索と確率モデルの最適化に基づく動画の可逆符号化 ○根本倅次・亀田裕介・松田一朗・伊東 晋(東京理科大)		

会場C	8/31(金) 9:20-10:20	[31C]ストレージ	竹下伸夫(三菱電機)
31C-1	位相格子を用いた空間分割位相シフト法による位相多値記録プログラムメモリ用データ読み出し手法の検討 ○信川輝吉・片野祐太郎・室井哲彦・木下延博・石井紀彦(NHK)		
31C-2	ホログラムメモリにおける振幅多値記録方式の一検討 ○片野祐太郎・室井哲彦・木下延博・石井紀彦(NHK)		
31C-3	8K240fpsスロー再生装置の開発 ○梶山岳士・菊地幸大・船津良平・宮下英一・島本 洋(NHK)		

会場D	8/31(金) 9:00-10:20	[31D]無線・光伝送2	伴 泰次(住友電工)
31D-1	複数の通信キャリアを利用した映像伝送システムの開発 ○栗山和久(関西テレビ)		
31D-2	画像処理による光中継装置の探索性能の改善 ○武田茂憲・前田幹夫(工学院大)		
31D-3	水中映像伝送用光ビームの位置ずれ検出性能の改善 ○兼平真央・高野真樹・根岸正文・前田幹夫(工学院大)		
31D-4	信号点の選択性再配置によるインパルス雑音の影響軽減方式に関する研究 ○小倉圭介・中村 聡・伊丹 誠(東京理科大)		

会場E	8/31(金) 9:00-10:20	[31E]映像表現&CG2	石井陽子(NTT)
31E-1	体格差を考慮したVRを用いた冠水状況体験システムの開発 ○比企野裕(東京電機大), 高橋時市郎(東京電機大/アストロデザイン), 森谷友昭(東京電機大)		
31E-2	腕を振ってVR空間上を移動するユーザインタフェースの手法の評価 ○岩崎巨佑(東京電機大), 高橋時市郎(東京電機大/アストロデザイン), 森谷友昭(東京電機大)		
31E-3	生体情報を用いたアバターの表情の漫符付き表現手法 ○玄葉 脩(東京電機大), 高橋時市郎(東京電機大/アストロデザイン)		
31E-4	日本の水墨画における輪郭線技法に基づくレンダリング手法 ○湯本陽菜・小玉周平(東京電機大), 高橋時市郎(東京電機大/アストロデザイン)		

8月31日(金) 2限目

会場A	8/31(金) 11:10-12:10	[企画セッション5]KIBME招待講演 KIBME & ITE Lecture Session	Hiromasa Yanagihara (KDDI Research)
企画5-1	<p>Joint High Dynamic Range (HDR) and Super-Resolution (SR) Imaging from a Single Input Image ○Nam Ik Cho (Seoul National Univ.)</p> <p>With the advent of UHD/HDR broadcasting and displays, we need to capture the wider dynamic range and higher resolution images. Also, we need to enhance the resolution and the dynamic range of existing low-resolution and/or low-dynamic-range contents. In this talk, we first review the conventional HDR imaging (HDRI) methods that use multiple sensors or multiple time-exposures.</p> <p>Then we present an HDRI method, which generates tone-mapped-like HDR image from a single image. We show that the cascade of HDRI and SR yields quite pleasing results and thus one of successful single-input HDRI-SR method. Furthermore, we present a new framework that jointly enhances the resolution and the dynamic range of a single image, i.e., simultaneous SR and HDRI, based on the virtual multi-exposure method or convolutional neural network (CNN). We find that the joint SR and HDRI can be effectively performed by mostly focusing on the reconstruction of high-frequency details. Specifically, the high-frequency component in our work is the reflectance component according to the Retinex-based image decomposition, and only the reflectance component is enhanced by the CNN while another component (illumination) is simply manipulated.</p> <p>In training the CNN, we devise an appropriate loss function that contributes to the naturalness quality of result images.</p>		

会場B	8/31(金) 10:40-12:00	[32B]画像処理1	河合吉彦(NHK)
32B-1	三次元DFT係数の統計的モデリングに基づく動画像の階層的クラスタリング ○齊藤隆弘・小松 隆(神奈川大)		
32B-2	三次元平均値分離型ST-DFT 変換係数の雑音分散推定 ○小松 隆・齊藤隆弘(神奈川大)		
32B-3	マルチスケール矩形フィルターを用いた高速な画像強調/ノイズ低減 ○栗原康平・鈴木大祐(三菱電機)		
32B-4	トンネル切羽画像を対象にした割れ目に関する領域方向成分分析 ○加藤典子(国土交通省), 鶴岡信治・八神寿徳・川中普晴・高瀬治彦(三重大)		

会場C	8/31(金) 10:40-12:00	[32C]ディスプレイ	馬場雅裕(東芝)
32C-1	UHD-TV用ディスプレイの入出力基礎特性評価 ~ UHD-TV用ディスプレイにおけるRGB原色信号の他原色信号への ○坪井 亮・下平美文・青木 徹(静岡大)		
32C-2	量子ドットEL素子作製に向けたZnInGaP量子ドットの精製と熱分析 ○本村玄一・小倉 溪・都築俊満・藤崎好英(NHK), 長久保準基・平川正明・西橋 勉(アルバック)		
32C-3	電子ホログラフィ応用を目指したWスピン磁壁移動型光変調素子 ○東田 諒・船橋信彦・青島賢一・町田賢司(NHK)		
32C-4	狭ピッチEOポリマー光フェーズドアレイの設計 ○宮本裕司・平野芳邦・本山 靖・町田賢司(NHK), 上田里永子・山田千由美・山田俊樹・大友 明(情通機構), 菊池宏(NHK)		

会場D	8/31(金) 10:40-12:30	[32D]放送方式4+フェロー記念講演	森住俊美(NTT)
32D-1	ハイブリッドキャスト4Kビデオを用いたライブ視聴とデバイス連携の取り組み ○中井隆幸(朝日放送テレビ), 平松和茂(NHK), 寺田果生・山野 悠(朝日放送テレビ), 西村 敏(NHK)		
32D-2	小規模ハイブリッドキャストサーバーの開発 ○大山 悟(関西テレビソフトウェア), 並川 巖・栗山和久・小池 中(関西テレビ)		
32D-3	柔軟なサービス提供を可能とするハイコネ®・ライブラリ(Hybridcast Connect Library)の提案 ○平松和茂・大亦寿之・池尾誠哉・瀧口 徹・藤井亜里砂・藤沢 寛(NHK)		
32D-4	大切な人へ贈るあなただけのCM ~ ハイコネXによるオフラインとオンエアのユルい融合 ~ ○高林 徹・本間康文(TBSテレビ)		
32D-5	12:00-12:30 【フェロー記念講演】放送技術者がネット配信技術で知っておくべき6つの事柄(予稿なし) ○本間康文(TBSテレビ) 「放送技術者がネット配信技術で知っておくべき6つの事柄」として、TV立ち上げに携わった経験から、ネット配信技術の理解のポイントを解説します。		

会場E	8/31(金) 10:40-12:00	[32E]映像表現&CG3	石井陽子(NTT)
32E-1	プロジェクションマッピングのためのマスクと曲面形状の簡便な計測およびFPGAによるリアルタイム補正 ○永野佳孝(愛知工科大), 杉森順子(桜美林大)		
32E-2	点群統合による共同作業可能な3D描画ARシステムの提案 ○加賀 新・浜本隆之(東京理科大)		
32E-3	慣性センサーとワイヤーを用いたカメラの動きデータ計測手法の検討 ○加藤大一郎(NHK-ES), ミツ峰秀樹(NHK)		
32E-4	粒子法を用いた左心室と大動脈における圧力変化シミュレーション ○青山和広・夏目拓也・張 英夏・向井信彦(東京都大)		

8月31日(金) 3限目

会場A	8/31(金) 13:10-16:35	[企画セッション6]「伝統工芸・芸能」だけじゃない!? 金沢の映像・ものづくり業界(聴講無料)	秋田純一(金沢大)
「伝統工芸・芸能」の印象が強い金沢の文化ですが、それだけでなく、それに裏付けられた文化が深く根付いていて、例えば金沢21世紀美術館のような、一見「伝統工芸」と関連が薄そうな施設が市民に根付いていたり、草の根的な文化が活発です。そのような背景をふまえ、外から見える「金沢らしさ」を再定義するような、金沢発の映像・ものづくり業界の背景と現状について、多角的に紹介します。			
13:10-13:15 全体説明			
企画6-1	13:15-13:45 オタク世代の映像趣向の変遷 和田紘樹(金城大学短期大学部) 金城大学短期大学部美術学科はその他の美術系大学と学生の趣向が異なり、オタクの割合が多い。以前は美術を志す学生は画家を目指すことが一般的で、画家を目標に美大へ進学することが多かったが、近年は画家を目指す学生は減少傾向にある。その代わりにアニメや漫画、ゲームといったエンタメ分野を目指す学生が増えている。本校の学生の作品の変遷をや実際の作品を紹介し、昨今の学生の現状と趣向について解説する。		

企画6-2	13:45-14:15 デジタルなものづくりが見るミライ ～ものづくりと3Dとメディアとデザインと～ 竹田太志(㈱クリパリンク) デザインとテクノロジーの融合による新しいクリエイティブは進化を続け、やがて一般社会に溶け込んでいきます。そんな中、(今現段階で最新の)ものづくりや映像制作の分野において、もはや欠かすことの出来なくなった3DCG。3Dプリンタを始めとするデジタルなものづくりのキーとなっているのも、3DCGを活用したクリエイティブです。今後、3Dが更に進化し、よりフォトリアルに、よりリアルタイムになり、現実との境目がなくなっていくとしたら？xRや自己発信としての映像メディア、コンテンツ、我々の生活はどう変化していくのでしょうか。今回はそんな「デジタルファブリケーション」が創り出す未来についてお話します。
企画6-3	14:15-14:45 YouTubeと日本・北陸のグローバリズム考(予稿なし) 小西裕太(ケーミュージックライブ) 今YouTuberと言われる職業まで現れ始め一つの新しい仕事の形となり社会にも影響を与えるようになりました。YouTuberという言葉がまだ世の中に存在しない時代からYouTubeにてコンテンツ配信を行ってきた私が見てきたYouTubeの世界と日本のYouTubeの違い、そして北陸とYouTubeの利用について考える。
	14:45-14:55 休憩
企画6-4	14:55-15:25 making of ABAL(予稿なし) 尾小山良哉(㈱ABAL) ABAL(https://www.abal.jp/)のものづくりについてお話しいたします。
企画6-5	15:25-15:55 変化する映像制作会社の仕事 黒田朋宏(㈱フィックス) 今や広告映像はパソコンやスマホのスクリーンで再生される時代。映像制作会社にもこれまでと違うアプローチが求められています。
	15:55-16:35 パネルディスカッション

会場B	8/31(金) 13:00-14:40	[33B]画像処理2	根岸博康(三菱電機)
33B-1	曖昧映像検索における意味メタデータ利用の検討 板橋龍之介・〇八木伸行(東京都市大)		
33B-2	共通ヒストグラム均等化によるカラー画像の強調 〇陳 維・井上光平・原 健二・浦浜喜一(九大)		
33B-3	誤差拡散法に基づくツーインワンカラー画像ステガノグラフィ 〇董 芮希・井上光平・原 健二・浦浜喜一(九大)		
33B-4	周波数領域におけるCross reblurringに基づく多焦点画像群からのdepth推定について 〇北 宏樹・吉田俊之(福井大)		
33B-5	没入型VR音響システムの主観評価 〇矢澤櫻子・小林和則・齊藤翔一郎・原田 登(NTT)		

会場D	8/31(金) 13:00-14:40	[33D]放送方式5	伊丹 誠(東京理科大)
33D-1	地上放送高度化方式に対応した変復調装置の評価(1)～AWGN環境での性能評価～ 〇山上悠喜・佐藤明彦・蒨 拓也・井地口朋也・宮坂宏明・朝倉慎悟・白井規之・竹内知明・中村円香・岡野正寛・村山研一・土田健一(NHK)		
33D-2	地上放送高度化方式に対応した変復調装置の評価(2)～SFN環境での性能評価～ 〇井地口朋也・佐藤明彦・山上悠喜・宮坂宏明・朝倉慎悟・白井規之・蒨 拓也・竹内知明・中村円香・岡野正寛・村山研一・土田健一(NHK)		
33D-3	室内実験によるLDPC符号の特性評価 〇朝倉慎悟・竹内知明・蒨 拓也・宮坂宏明・佐藤明彦・山上悠喜・井地口朋也・白井規之・中村円香・岡野正寛・村山研一・土田健一(NHK)		
33D-4	次世代地上放送の暫定仕様における巡回シフトインターリーブに関する一検討 〇宮坂宏明・佐藤明彦・朝倉慎悟・蒨 拓也・竹内知明・中村円香・土田健一(NHK)		
33D-5	IP多重化方式を用いた次世代地上放送のSFN野外基礎実験 〇白井規之・永田裕靖・井地口朋也・佐藤明彦・山上悠喜・河村侑輝・竹内知明・大槻一博・中村円香・岡野正寛・土田健一(NHK)		

8月31日(金) 4限目

会場B	8/31(金) 15:00-16:50	[34B][特集テーマ]AI技術の産業応用+フェロー記念講演	望月貴裕(NHK)
	15:00-15:30 [フェロー記念講演]大規模放送映像アーカイブ解析(予稿なし) 〇佐藤真一(NII)		

34B-1	国立情報学研究所では、東京地区の地上波テレビ放送映像7チャンネルを24時間ずっと蓄積し続けている大規模放送映像アーカイブ装置NII TV-RECSを運用しており、これまでに数年分のアーカイブを構築している。本講演では、個のアーカイブを活用した放送映像解析に関する研究事例を紹介する。特に、コマーシャル映像高速マイニング、放送映像とWebとの統合解析による社会分析、並びに視聴率との統合解析による視聴率変化の理由解析システムについて紹介する。
34B-2	AI技術を使った誤テロップ自動検出に関する技術検証 ○中野 信(日本テレビ)
34B-3	車載カメラ映像に対するヒヤリハット発生対象の特定手法の検討 ○山本修平・倉島 健・戸田浩之(NTT)
34B-4	違法動画検知のための動画のプロフィールを用いたリランキング ○武藤博子・川西隆仁・北原 亮・平野泰宏・吉岡 理(NTT)
34B-5	メッシュ状雨量データを活用した河川水位予測 ○小池義昌(NTTアドバンステクノロジー), 高嶋洋一(NTT), 嶋村海人(NTTアドバンステクノロジー)

会場D	8/31(金) 15:00-16:40	[34D]放送方式6	岡野正寛(NHK)
34D-1	偏波MIMO-超多値OFDM伝送における伝送路推定方式の検討 ○布施卓哉・大坪弘明・中村 聡・伊丹 誠(東京理科大)		
34D-2	MC-CDMCを用いる衛星伝送におけるサブキャリア変調方式の比較 ○野辺悠弥・中村 聡・伊藤紘二・伊丹 誠(東京理科大)		
34D-3	視聴情報に基づく放送伝送帯域の効率的な割り当て方式の検討 ○矢澤祐一・山下博之・木谷佳隆・松本修一(日本ケーブルラボ)		
34D-4	ケーブルテレビ網でのRF/IP伝送技術の自動切換方式に関する提案 ○木谷佳隆・山下博之・矢澤祐一・松本修一(日本ケーブルラボ)		
34D-5	高速ザッピングのためのマルチキャストグループ一括接続方式の検討 ○山下博之・矢澤祐一・松本修一(日本ケーブルラボ)		

映像情報メディア学会
2018年年次大会実行委員会構成

委員長	三谷 公二	副会長	NHK
幹事	柳原 広昌	調査担当理事	KDDI 総合研
〃	高村 誠之	総務担当理事	NTT
〃	高木 康博	企画担当理事	東京農工大
〃	菅 真紀子	会計担当理事・大会会計担当主査	ソニー
〃	三科 智之	編集担当理事	NHK
〃	秋田 純一	会場世話役／本部・支部連絡担当	金沢大
委員	為村 成亨	情報センシング研究委員会幹事	NHK
〃	馬場 雅裕	情報ディスプレイ研究委員会幹事	東 芝
〃	竹下 伸夫	マルチメディアストレージ研究委員会幹事	三菱電機
〃	大内 幹博	放送技術研究委員会委員：放送方式	パナソニック
〃	和泉田智志	放送技術研究委員会委員：無線光	日本テレビ
〃	鈴木 高幸	放送技術研究委員会委員：放送現業	テレビ朝日
〃	近藤 悟	ヒューマンインフォメーション研究委員会幹事	NHK
〃	望月 貴裕	メディア工学研究委員会幹事	NHK
〃	根岸 博康	メディア工学研究委員会委員	三菱電機
〃	杉本 志織	映像表現&コンピュータグラフィックス研究委員会幹事	NTT
〃	石綿 宏	アントレプレナー・エンジニアリング研究委員会幹事	エーエスエムエル ジャパン
〃	陶山 史朗	立体映像技術研究会委員会幹事	徳島大
〃	高田 英明	立体映像技術研究会委員会幹事	NTT
〃	三ッ峰秀樹	スポーツ情報処理時限研究委員会幹事	NHK

以上21名

2018年年次大会 支部実行委員会構成

映像情報メディア学会北陸支部

役 職	氏 名	所 属
委員長	秋田 純一	金沢大学
委 員	藤井 哲志	NHK金沢放送局
	柳田 正次	富山テレビ放送(株)
	吉田 俊之	福井大学大学院
	増田 勉	NHK金沢放送局
	高松 衛	富山大学大学院
	吉高 淳夫	北陸先端科学技術大学院大学
	京村 英二	北陸放送(株)
	坂本 康正	金沢工業大学
	筒井 康浩	西日本電信電話(株)
	中嶋 芳雄	
	佐伯 則男	北日本放送(株)
	志田 晴康	NHK福井放送局
	杓野 孝司	NHK富山放送局
辻 真貴男	NHK金沢放送局	

~ × E ~

ITE 併設展示会 2018 出展者情報

ITE併設展示会2018 出展者情報

会期 2018年8月29日(水)～31日(金) 日時 8月29日(水) 12:00～17:00
 8月30日(木) 10:20～17:45
 会場 金沢大学・角間キャンパス 大講義室B 8月31日(金) 10:20～15:00

トピックス 8Kスーパーハイビジョン展示 ※協力：NHK放送技術研究所
 会場ではコーヒー・茶菓子のサービスを行っています。ぜひご来場いただき最先端の技術・商品・サービスをご確認ください。

小間番号	001	出展者名	アストロデザイン株式会社	TEL	03-5734-6301	FAX	03-5734-6102
所在地	〒145-0066 東京都大田区南雪谷1-5-2						
連絡先メール	astro-info@astrodesign.co.jp		HOME PAGE	http://www.astrodesign.co.jp			

対応部署	営業三部	▼ 製品写真
出展製品・サービス内容	SC-8217 ・3D LUT COLOR CONVERTER IP-4030 ・リアルタイムMTF測定装置	
▼ メッセージ or PR	<p>SC-8217は、8K(YCBCR 4:2:2または Dual Green)／4K／HD信号を入力し、HDR to SDR変換後、表色系を3D LUTを用いて変換、HD信号を4分配出力する装置です。3D LUTには83×83×83サイズの非等間隔グリッドを採用しました(ITU-R BT.2407-0 Annex2対応)。</p> <p>IP-4030は、4K／HD信号のMTF(Modulation Transfer Function)をリアルタイムで計測するシステムです。所定のチャートとスランティッドエッジ法を用いたアルゴリズムによって、カメラレンズの空間解像度特性を高い精度で測定することができます。</p>	

小間番号	002	出展者名	株式会社 朋栄エレクトクス	TEL(本社)	03-3446-3497	FAX(本社)	03-3445-5116	TEL(大阪事業所)	06-6366-0022	FAX(大阪事業所)	06-6366-1135
所在地	[本社] 〒150-001 東京都渋谷区恵比寿3-8-1 朋栄ビル 5F [大阪事業所] 〒530-0055 大阪市北区野崎町9-8 永楽ニッセイビル 3F										
連絡先メール	exhibition@f-eletex.co.jp		HOME PAGE	www.f-eletex.co.jp							

対応部署	営業部	▼ 製品写真
出展製品・サービス内容	8K・4K・HDに対応した信号発生器及び色域輝度変換装置を中心に4K対応のタイムラグチェッカーを出展。放送・映像システムの開発・製造・販売	
▼ メッセージ or PR	<p>当社は「映像を操る技術者集団」として、顧客満足(品質、納期、価格)を継続的に高め、「すべてはお客様と朋(とも)に栄えるために。」という経営理念のもと、お客様第一の発想で、技術を活かすことを起点に事業展開を進めております。主力製品としては8K・4K・HDに対応した信号源と色域輝度変換装置、4K・HDに対応したタイムラグチェッカー、TSシームレススイッチャー等があります。</p> <p>また、株式会社 朋栄YEMエレクトクスは、2018年6月20日より社名を「株式会社 朋栄エレクトクス」に変更致しました。</p>	

小間番号	003	出展者名	株式会社オンテック	TEL	03-5256-2061	FAX	03-5256-2065
所在地	〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2-8-2						
連絡先メール	vcsales@ontec.co.jp		HOME PAGE	https://www.ontec.co.jp/vc/			

対応部署	ビデオコミュニケーション事業ユニット 営業技術部	▼ 製品写真
出展製品・サービス内容	KAMELEON 4K, MFP-330 マルチファイルプレーヤー, VDRH-4000P HDビデオディスクレコーダー, BONX GRIP Bluetooth ヘッドセット	
▼ メッセージ or PR	<p>放送局の報道部門で多数ご使用いただいておりますマルチファイルプレーヤー-KAMELEON(MFP-330)の4K対応製品(新製品)を出展いたします。KAMELEON 4Kは、4KUHD(60p)映像ファイルの再生に対応、XAVCsやHEVCの再生を可能としています。また民生用ファイルのコーデックに幅広く対応、ほぼすべてのファイルを認識して再生を行うことができます。また2Kファイルは4Kへアップコンバートして再生可。4K時代のファイル再生を強力にサポートします。製品はその他にVDRH-4000P HDビデオディスクレコーダー、BONX GRIP Bluetooth ヘッドセットを展示いたします。</p>	

小間番号	004	出展者名	株式会社エクスプローラ	TEL	045-477-2035	FAX	045-477-2012
所在地	〒041-0801 北海道函館市桔梗町379番22号 函館テクノパーク内 [関東オフィス] 〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜2-3-12 新横浜スクエアビル 株式会社PALTEKオフィス内						
連絡先メール	sales@explorer-inc.co.jp		HOME PAGE	http://www.explorer-inc.co.jp/			

対応部署	株式会社エクスプローラ 関東オフィス	▼ 製品写真
出展製品・サービス内容	4K・8K対応小型マルチチャンネル信号発生器 EMVG-4400	
▼ メッセージ or PR	<p>EMVGシリーズは2K映像から4K・8K映像に対応する、4機種のラインアップからなる小型テスト信号発生器です。35mm×(W)190mm×(D)115mmというコンパクトな筐体に納められ、12G-SDIインターフェースを搭載して配線の煩雑さを解消しています。映像機器やシステムの確認作業において手軽にシステムチェックを行ったり、実験室においてはスペース効率の有効化に役立ちます。</p> <p>出力パターンの切り替えや、モードの設定は、本体パネルのPiano SWで行いますが、据え置き用途として使う場合にUSB接続でGUIを使った設定もでき、設定したパラメータの本体保存やエクスポート・インポートも可能です。</p>	

小間番号	005	出展者名	株式会社トラフィック・シム	TEL	052-526-5162	FAX	052-219-5725
所在地	〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄一丁目31番41号 大井ビル 2F						
連絡先メール	show@trafficsim.co.jp	HOME PAGE	http://www.trafficsim.co.jp/				
対応部署	営業部			▼ 製品写真			
出展製品・サービス内容	TSアナライザ「HACOBE2+」と放送データ共有システム「RecShare」、4K8K放送記録・再生システム						
▼ メッセージ or PR	<p>株式会社トラフィック・シムは、デジタル放送分野における専門技術をベースにICT(Information and Communication Technology) 分野におけるオープンテクノロジーを利用したシステム開発を得意としており、1999年に日本で初めて商用TS監視システムを開発して以来、デジタル放送の監視・記録(同録)・モニタリングにフォーカスした製品開発とその派生商品の開発を続けています。</p> <p>本展示会ではそんな製品の中から、■放送データの詳細な解析、監視、変調まで可能なTSアナライザ「HACOBE2+」■放送データの社内共有や確認システムとして皆様にご使用頂いております、放送データ共有システム「RecShare」及び「4K8K放送記録・再生システム」を展示する予定です。また、他の製品についてもいくつかご紹介させて頂く予定をしておりますので、是非一度弊社ブースにお越し頂ければ幸いです。</p>						

小間番号	006	出展者名	株式会社K-WILL	TEL	042-788-3834	FAX	042-788-3835
所在地	〒194-0001 東京都町田市つくし野3-23-41 マルビシビル 2F						
連絡先メール		HOME PAGE	http://www.kmw.co.jp/				
対応部署	営業部			▼ 製品写真			
出展製品・サービス内容	4K対応画像評価装置 VP4000						
▼ メッセージ or PR	<p>4K映像の二重刺激(比較方式)画像評価が可能となりました。</p> <p>2160 59.94pフルサンプルの4K基準画像及び評価画像の時間軸を補正し、画素同士ピッチリと合わせこみ、その差分値(PSNR)と共に、ITU-T J.144 をベースとした評価方式により客観評価値(DSCQS)を算出します。エンコーダ評価、現用・予備比較、バンク向け検査等に最適です。</p> <p>なお、従来の1080i画像評価は、PROBE4000ボード1枚で可能です。</p> <p>用途：・コーデックシステムをはじめとする放送用機器および放送システムの品質評価 ・その他映像機器および映像システムの品質評価</p>						

小間番号	007	出展者名	株式会社ユニテックス	TEL	042-710-4630	FAX	042-710-4660
所在地	〒194-0021 東京都町田市中町二丁目2番地4号 ユニテックスビル						
連絡先メール	sales@unitex.co.jp	HOME PAGE	http://www.unitex.co.jp/				
対応部署	システムソリューション営業部			▼ 製品写真			
出展製品・サービス内容	240MB/sの高速転送と大容量を兼ね備えた世界で唯一の高速USB接続LTOテープ装置、データの高速アーカイブとオフライン管理を可能とするアーカイブソフトウェア。						
▼ メッセージ or PR	<p>最新LTO-8(非圧縮12TB記録可能)に対応した高速USB3.0 LTO-8テープ装置「LT80H USB」をはじめ、LTOドライブを2台搭載し正副同時作成・複製・各世代マイグレーションに最適な「Dual LTO」、メタデータを含む管理情報からアーカイブデータのオフライン管理・検索が可能な「UNITEX ArchiveLT」をご紹介します。「UNITEX ArchiveLT」はメディアのスキャン機能によるデータの一元管理、LTOテープライブラリにも対応し小規模から中・大規模アーカイブシステムにも利用可能です。</p> <p>デモンストレーションも行っていますので、是非この機会に当社製品をご覧ください。</p>						

小間番号	008	出展者名	ビデオトロン株式会社	TEL	042-666-6311	FAX	042-666-6319
所在地	〒193-0835 東京都八王子市千代町2-17-16						
連絡先メール	sales@videotron.co.jp	HOME PAGE	http://www.videotron.co.jp/index.html				
対応部署	営業部			▼ 製品写真			
出展製品・サービス内容	映像・音声機器の開発ならびに販売						
▼ メッセージ or PR	<p>豊富なモジュールラインナップで放送システムをトータルにサポート、「Vbusシリーズ」をご紹介します。</p> <p>【12G-SDIに対応した次世代機】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇12G対応シグナルジェネレーター(SG-70U):12Gもしくはクワッドリンク3Gのテスト信号を出力 ◇12G対応ビデオタイマー(VT-70U):時刻、残時間、PRESET TIMER、カウントダウンタイマーを表示 ◇12G対応UHDダウンコンバーター(UHC-70U):12G-SDIを3G/HD-SDIにダウンコンバート ◇12G対応クワッドリンクコンバーター(UHX-70U):12G⇄クワッドリンク3Gを相互変換器 ◇12G対応SDI信号分配器(DDA-70U):12G-SDIを2×4もしくは1×8分配 						

小間番号	009	出展者名	メラノックステクノロジーズジャパン株式会社	TEL	03-5937-3116	FAX	03-5937-3117
所在地	〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-22-45 KDX西新宿ビル 1F						
連絡先メール	makotot@mellanox.com	HOME PAGE	http://www.mellanox.com				
対応部署	技術部			▼ 製品写真			
出展製品・サービス内容	PTP対応25G/100Gイーサネットスイッチ 100G対応イーサネットNIC、ビデオ用カーネルバイパスミドルウェアRivermax						
▼ メッセージ or PR	<p>低レイテンシ、低ジッタ、ゼロパケットロス、PTPといった、映像を運ぶために必要な機能をサポートしつつ、低価格、小型フォームファクタといった特徴を兼ね備えたイーサネットスイッチをご用意。</p> <p>100Gまでのインタフェース速度に対応したイーサネットNICと、カーネルバイパス技術を用いたビデオ処理用ミドルウェアRivermaxを組み合わせて、汎用サーバ上で、低レイテンシ、低CPU使用率のビデオ処理プラットフォームを実現可能。空いたCPUリソースで、様々な処理を実現いただけます。CPUは100Gのトラフィックを受け取り、自由なビデオ処理ができます。</p>						